

令和 2 年 6 月 3 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02486

研究課題名(和文)アーミッシュ・コミュニティを題材とする児童文学の作品分析と受容研究

研究課題名(英文)Children's literature with Amish themes:Its analysis and reception

研究代表者

大藪 加奈 (Oyabu, Kana)

金沢大学・外国語教育系・教授

研究者番号：30283146

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、現代社会における宗教と児童文学の関係を、作品と読者に焦点を当てて考察することを目的としている。主要対象作品は、北米のアーミッシュ・コミュニティを題材とした児童文学である。アーミッシュの子供たちが主人公の物語のうち、アーミッシュ・コミュニティ内で読まれている作品と、非アーミッシュ児童に広く読まれている作品を比較・分析した。これらの研究により、過去20年間に北米で出版数が飛躍的に伸びている一般児童向けアーミッシュ題材児童文学の実態を明らかにし、宗教コミュニティの登場人物が世俗的な児童文学マーケットに浸透している理由を探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究では、現代アメリカ社会における宗教と児童文学の関係を、作品分析と受容研究によって、明らかにしようとした。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on children's literature with Amish themes. The research compared children's literature written for non-Amish children and children's literature written for Anabaptist families including the Amish. The research found that texts for non-Amish readers tend to depict "glamorous chores" (i.e. looking after cute domestic animals, collecting eggs, picking strawberries and other colorful fruits) whereas stories in the children's section of an Anabaptist family magazine deal with more mundane chores such as cleaning and ironing, taking care of younger siblings who are often unhappy or unruly, and so on. The research has also found that the way domestic chores are depicted to have a religious dimension (from feeling unwilling to take part in such activities to feeling elated or cleansed by accomplishing the chores) is similar to the descriptions of chores in children's stories with Zen themes.

研究分野：英語文学

キーワード：児童文学 アーミッシュ

1. 研究開始当初の背景

児童文学と宗教の関係については、国内外で研究されており、主要学会誌で特集が組まれることもある。(Children's Literature Association Quarterly, 1989年・1999年・2011年、『日本児童文学』1992年、『宗教研究』2015年など)国内では、たとえば大澤智恵子、本多峰子、L.Lundmarkが、アンデルセン、C.S.Lewis、宮本賢治などの作品の宗教性について論じており、テキスト内の宗教的表現の分析や、宗教的主題の解明等に関する研究は多い。しかし、Mark Knight (2009)が主張するように、文学と宗教の関係を検証するには、作品を分析するだけでは十分ではない。世俗化の進む現代において、児童文学と宗教の関係は複雑化しながらも持続する状況(Craig Werner, Frank Riga et al.,1989)にあり、作者が宗教を描く理由も多様化している。(Jennifer Miskec,2011)このような状況の中、作品研究と共に、読者や作者・出版市場等の研究も含めた学際的なアプローチが、宗教と児童文学の研究においても必要であると言える。

「Instruction with Delight」(A Little Pretty Pocket Book,1744.のモットー)という言葉にあらわされる様に、児童文学では教訓的読み物としての役割に加えて、読みものとしての楽しさの重要性が訴えられて久しい。宗教や教訓よりも、読む楽しさを前面に押し出す作品が主流となる中、明確な宗教意識を持つ主人公が再登場し、広く受容される状況は、児童文学と宗教の新たな関係を示す現象として、注目を集めた。現代社会において、宗教や宗教コミュニティを扱う児童文学は懐古主義的なのか、新しい方向性を示唆しているのか。本研究は、このようなテーマを、作品分析と、作品・読者間の関係の双方に注目して考察する内容となっている。

子どもを取り巻く宗教回帰と、それが児童文化にもたらす影響は、特に移民背景を持つモスラムコミュニティを対象に研究されてきた。申請代表者も、2007年以降英語圏イスラム教徒対象の児童文学を研究し、それらがモスラム児童に、現代社会におけるオルタナティブな生き方とアイデンティティを提供し、西洋文化圏に暮らす中級階級のモスラム消費者(保護者)に浸透している様子を明らかにした。また、北米において独自の生活様式を維持するアーミッシュ児童を対象とする児童文学も、キリスト教の観点から現代社会でオルタナティブな生き方をする児童に寄り添う作品となっていることを明らかにした。しかし、近年出版数が増加している宗教コミュニティ外の一般児童を対象としたアーミッシュ題材の作品に関する研究は、まだほとんど行われていない。本研究では、申請者のこれまでのアーミッシュ児童文学研究を発展させて、主にロマンス作家が手がける一般児童向けアーミッシュ児童文学を研究し、現代社会における児童文学と宗教の関係に関する研究方法を確立すべく、始められた。

アーミッシュ研究は、現代北米社会に生きながら、自動車、電気機器等の「文明の利器」を用いず、再洗礼派キリスト教の教理に基づく暮らしを続けるアーミッシュの人々について、社会学、歴史学、医療関係等、いろいろな観点から研究が行われてきた。中でも、アーミッシュ研究の第一人者で、本課題の研究協力者であるエリザベスタウン・カレッジ(米国・ペンシルバニア州) Donald Kraybill 教授は、現代社会とアーミッシュ・コミュニティの関係についての研究を行っている。(著書多数)

また、アメリカ合衆国におけるアーミッシュ表象については、たとえば歴史学者 David Weaver-Zercher が、著書 The Amish in the American Imagination(2001)で、ハリウッド映画や観光ポスター・旅行記など多彩な主流アメリカ文化における、アーミッシュ・コミュニティの描かれ方を分析している。Weaver-Zercher も、Kraybill 同様、アメリカ社会のアーミッシュへの強い興味・関心を分析することが、現代社会を読み解く鍵になると考えた。D.Weaver-Zercher と Kraybill は、1930年代以降登場するアーミッシュ題材の児童文学が、アーミッシュ表象の先駆的役割を担ってきたことも明らかにしている。(The Amish Struggle with Modernity(1996))

一方、アーミッシュ表象研究のうち、本研究課題に直接関係する文学分野の研究としては、本研究課題の研究協力者である Valerie Weaver-Zercher の Thrill of the Chaste: The Allure of Amish Romance Novels (2013)がある。これは、アーミッシュ女性を主人公としたロマンス小説に関する初めての研究書である。Beverly Lewis 著の The Shunning(1993)以降、徐々に出版数が増え続け、2006年以降爆発的な人気を得たアーミッシュ題材のロマンス文学が、「hypermодernity」と「hypersexuality」が顕著な現代アメリカ社会において、大きな商業的成功を収める現象を、V.Weaver-Zercher は、作品研究だけでなく、作家や出版社、読者や図書館員への聞き取り調査も行って分析した。

本申請課題の主な研究対象は、アーミッシュ・ロマンスの人気作家によって書かれた児童書なので、本研究は V.Weaver-Zercher の作家研究と読者研究の両方を最も重要な先行研究と位置づける。ただ、前述したようにアーミッシュ題材の児童文学は、アーミッシュ表象としてはアーミッシュ・ロマンスよりも歴史が長い。よって、本課題はアーミッシュ・ロマンス等のアーミッシュ表象研究の土台を強固にする研究とも言える。

2. 研究の目的

この研究は、現代社会における宗教と児童文学の関係を、作品と読者に焦点を当てて考察することを目的としている。主要対象作品は、北米のアーミッシュ・コミュニティを題材とした児童文学である。アーミッシュの子供たちが主人公の物語のうち、アーミッシュ・コミュニティ内で読まれている作品と、非アーミッシュ児童に広く読まれている作品を比較・分析した。また、

異なる読者を対象とした作品とそれぞれの受容を比べた。これらの研究により、過去 20 年間に北米で出版数が飛躍的に伸びている一般児童向けアーミッシュ題材児童文学の実態を明らかにし、21 世紀の児童文学において、宗教コミュニティの登場人物が世俗的な児童文学マーケットに浸透している理由を探った。

3. 研究の方法

この研究課題では、それまで行ってきた研究を発展させて、主に Wanda Brunstetter、Beverly Lewis、Linda Byler、Mary Ann Kinsinger & Suzanne Woods Fisher の児童向け読み物の作品分析を進めた。そして、申請者がこれまで研究してきたアーミッシュ児童対象の読み物と、それらの作品の主題・表現などを比較分析して、一般読者対象の作品の文学的特徴を特定した。また、聞き取り調査やウェブ調査で、出版社がこれらの作品をどのようにマーケティングし、一般読者が作品をどのように受け止めているか分析し、作品研究に照らし合わせて受容研究も進めた。

具体的には、アーミッシュ・コミュニティを題材とした児童文学作品（一部収集済み）を収集分類し、テキストの分析を行った。発行数の多いアーミッシュ・ロマンス作家による作品については、作品の受容研究も行った。現地調査とウェブ上のファンサイト等の書き込みに関する分析調査を行い、アーミッシュ読者、非アーミッシュ読者対象の作品で特徴的な主題や表現方法をまとめ、その結果に基づき、読者がそれぞれのキーコンセプトに対して、どのような認識を持っているか調べた。また、出版社が、これらの作品をどのようにマーケティングしているか調べ、一般児童向け児童文学と宗教の関係に関する研究を行った。

4. 研究成果

平成 28 年度

初期成果発表

作品だけでなく、受容研究として読者や出版社によるウェブサイト等の記述も調査分析した。アーミッシュやその他の再洗礼派を対象読者としている作品と、一般読者を対象としている作品があるので、それぞれに特徴的な主題や表現方法について、記述や描写のされ方の差を比較分析した。また、一般読者向けアーミッシュ題材図書と図書の分類、アーミッシュ・コミュニティおよびアーミッシュの表象研究を行った。アーミッシュの子ども画主人公の児童文学シリーズに焦点を当て、「アーミッシュらしさ」をどのように表現しているか、調べ、アーミッシュ研究、表象研究の初期成果発表として、2016 年 6 月 9 日～11 日に開催された国際アーミッシュ学会 (Amish 2016--Continuity and Change:50 Years of Amish Society)において、アーミッシュや再洗礼派の若者の悩みについての記述やその悩みにアドバイスする宗教者や一般人、その悩みを共有する手段としての雑誌の質問コーナーに関する発表を行った。(Can You Help ME? World View of Amish Youth Observed in "Young Companion")また、アーミッシュ関係図書を収集しているエリザベスタウンカレッジや、パースウェイ出版社の図書館などの利用も視野に入れ、エリザベスタウンカレッジの司書やパースウェイ出版社と連絡を取った。

平成 29 年度

アーミッシュ題材の作品が作り上げるアーミッシュイメージや、アーミッシュ題材の作品受容について調査したが、アーミッシュ題材の作品を取り巻く状況は、ここ数年の間に大きく変わっていることが明らかになった。ドラマやリアリティーショー、「ドキュメンタリー」という形で、極端に伝統と乖離したアーミッシュの若者たちの表象がテレビやインターネットにあふれ、何がフェイクで何が本当かわからない、というアメリカ社会の風潮がアーミッシュ題材の作品にも影響している。受容者が「真正正銘」のアーミッシュの生活描写を作品に求める一方で、スマートフォンを持ったアーミッシュ家庭に育ったとされる若者が「フェイクアーミッシュ」表象を地でいく写真や言説を投稿し、20 世紀に作られたのどかな田園生活やアメリカの理想としてのアーミッシュのイメージは、複雑化した。この研究成果については、国際児童文学学会の世界大会 (IRSC2017) で発表し ("Amish Youth in Media, SNS, and Literary Texts")、フロアとのディスカッションをとおして、更なる研究内容の深化につなげた。

平成 30 年度

作品の受容研究を行うための Youth Studies の手法に関する研究を主に行った。また、デジタルメディア上の子どもの言説の分析方法や、子どもと異文化の関係性についての研究もすすめた。また、アーミッシュ受容の研究として、昔風の生活や体を動かす活動と心の安定という面からアーミッシュの生活に関心をよせる読者の存在に注目し、禅やマインドフルネスとアーミッシュの関係についても考察し、アーミッシュを題材とした児童作品に現れる生活・活動と心の安定の描写を分析した。国立民族学博物館文化資源共同研究員として、国立民族学博物館で平成 30 年 4 月 18 日から平成 31 年 3 月 31 日まで開かれた企画展「アーミッシュ・キルトを訪ねて」に協力した。また、中部家政学会で、アーミッシュの家族に関する発表を行った。また、アーミッシュのライフスタイルに関する論文 (「家政学の視点で持続可能性を解く アーミッシュのライフスタイルから」)、『椋山人間学研究』巻: 13 ページ: 9-23)、「アーミッシュのライフスタイル」『月刊みんぱく 6 月号 (特集アーミッシュの生活と文化)』巻: 42-6 ページ: 5-6) を

発表し、学会でも発表した。(中部家政学会「アーミッシュから考える家族の絆」)また、関連分野の研究として、まわりと文化背景が異なる子供たちを題材とした児童文学について、国際児童文学協議会 (IBBY 2018)で発表した。

平成 31 年・令和元年度

アーミッシュを題材とした児童文学において、非アーミッシュを対象読者とした作品と、アーミッシュを含む再洗礼派を対象読者とした作品の比較から発展させ、いわゆる Glamorous Chore と分類される動物の世話や卵や果実等の採取ではなく、なんの変哲もない「退屈・つまらない」家事への肯定的な宗教的意識は、アーミッシュ対象の児童文学のみならず、日本の禅の「作務」を描く児童文学にもみられることについて、研究を進め、国際アーミッシュ学会で発表した。

(Amish Conference2019 “Similarity in Amish and Japanese Mind and Lifestyle: Zen and Amish”)また、国際児童文学学会で文化背景の異なる児童の沈黙について、発表した。(IRSC2019 “Silence of Migrant Children in Japanese Children’s Literature)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Kana Oyabu	4. 巻 23
2. 論文標題 Multiple Narratives in Searching for a Cat in Istanbul.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies of Language and Culture	6. 最初と最後の頁 173-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Dale Brown, Michiko Yaguchi, Lewis Murray, Mami Kanno, Kana Oyabu	4. 巻 13
2. 論文標題 Investigating the Demands on Students of English Medium Instruction (EMI) Courses to Better Focus English for Academic Purposes (EAP) Courses	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Forum of Language Instructors.	6. 最初と最後の頁 17-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 大藪千穂	4. 巻 42-6
2. 論文標題 アーミッシュのライフスタイル	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊みんぱく6月号(特集アーミッシュの生活と文化)	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kana Oyabu	4. 巻 -
2. 論文標題 Migrant Children in Stories of Etsuko Shindo	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IBBY 2018 Conference Proceeding	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masashi Hashimoto, Dale Brown, Lewis Murray, Kana Oyabu	4. 巻 12
2. 論文標題 A Statistical Analysis of Liberal Arts English Course Grading Practices at a Japanese National University: Towards More Equitable Grading	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Forum of Language Instructors	6. 最初と最後の頁 15-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24517/00050424	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nagwa Fekri Rashid, Masashi Hashimoto, Kana Oyabu	4. 巻 12
2. 論文標題 Effects of English Medium Instruction on Students' Learning Outcomes in Science: A Case Study at a College of Technology	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Forum of Language Instructors	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24517/00050424	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nagwa Rashid, Kana Oyabu	4. 巻 1
2. 論文標題 STEM Education in English: A Case Study of a Japanese Technical College	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ACE 2017 Educating for Change	6. 最初と最後の頁 437-454
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 大藪 千穂	4. 巻 53
2. 論文標題 持続可能性とシェアリング・エコノミー～環境の視点から～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生活経営学研究	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大藪 千穂	4. 巻 13
2. 論文標題 家政学の視点で「持続可能性」を解く～アーミッシュのライフスタイルから～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 椋山人間学研究	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大藪 加奈、戸田山みどり、公家義徳、丹治陽	4. 巻 春季号
2. 論文標題 子ども・演劇・ヤングアダルト	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本イギリス児童文学学会会報	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Kana Oyabu
2. 発表標題 Migrant Children in Stories of Etsuko Shindo
3. 学会等名 IBBY 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kana Oyabu (with Dale Brown, Kyoko Hearn, Mami Kanno, Hee Jung Kwon, Lewis Murray, Michiko Yaguchi)
2. 発表標題 Teaching How to Use Sources in EAP Courses in a Japanese University
3. 学会等名 EAP Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河田美喜夫・大藪千穂
2. 発表標題 アーミッシュから考える家族の絆
3. 学会等名 中部家政学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kana Oyabu, Chiho Oyabu
2. 発表標題 Amish Conference2019 Similarity in Amish and Japanese Mind and Lifestyle: Zen and Amish
3. 学会等名 Amish Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagwa Rashid, Kana Oyabu
2. 発表標題 STEM Education in English: A Case Study of a Japanese Technical College
3. 学会等名 Asian Conference on Education 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chiho Oyabu, Kana Oyabu
2. 発表標題 Problem Solving in "Can You Help Me" courner of Young Companion
3. 学会等名 Amish 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kana Oyabu
2. 発表標題 Amish Youths in Media, SNS, and Literary Texts
3. 学会等名 IRSCl(International Research Society for Children's Literature) 2017 Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kana Oyabu
2. 発表標題 Silence of mix-parentage child characters in Japanese children's literature
3. 学会等名 IRSCl 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大藪千穂他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 地域社会の創生と生活経済	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	大藪 千穂 (Oyabu Chiho) (10262742)	岐阜大学・教育学部・教授 (13701)	